



▶ 飯塚のベンチャーに世界が注目



飯塚のベンチャーに世界が注目

07/03 19:29

「パンデミック」という言葉をご存知でしょうか？

日本語では「感染爆発」。

感染症で世界的に、多くの犠牲者が出た状態を指します。

新型のインフルエンザが現れ、パンデミックが起きれば、全世界で数百万人の犠牲者が出るのでは、と懸念されています。

新型インフルエンザの感染爆発をどう防ぐか、今、世界的に注目を集めているのが、福岡県飯塚市のベンチャー企業です。

一般的に使われているものと、ほとんど見た目には変わらず、最近よく耳にする新型インフルエンザウイルスに有効なマスクが注目を浴びています。

今年4月から5月にかけて、秋田県の十和田湖や北海道の野付半島で見つかったオオハクチョウの死骸から、毒性の強いH5N1型の鳥インフルエンザウイルスが検出されました。

鳥に被害をもたらすこのウイルスが、ヒトに感染したケースは東南アジアなどで確認されていますが、さらに進化して人間から人間に感染する新型インフルエンザに変異すると、世界的大流行＝パンデミックが起きると恐れられています。

古くは中世ヨーロッパで人口の4分の1が死亡したペスト、20世紀始めは数千万人が犠牲になったスペイン風邪などがパンデミックの実例です。

これまでの鳥インフルエンザウイルスとH5N1型のウイルスの大きな違いは、体内での増殖期間が長いということです。

通常のウイルスは感染してから体内で増え、ほぼ6日目にはウイルスがなくなりませんが、H5N1型は20日以上体内でウイルスが生き続けると言われています。

しかも、これまでのインフルエンザウイルスとは型が違うため、人間はこのウイルスに対する免疫を持っていません。

今、新型インフルエンザ対策の一つとして注目を浴びているのが、飯塚市のベンチャー企業が企画した抗体マスクです。

従来のマスクは、静電気を帯びたフィルターでウイルスが入り込むのを防いでいましたが、完全には遮断できませんでした。

今回開発された抗体マスクは、静電フィルターに加え、「抗体フィルター」を組み込んでいます。

マスクで、ウイルスの侵入をブロックすると同時に機能を低下させようというのです。

この抗体を低コストで大量作製するために、一役買っているのがダチョウです。

ダチョウにH5N1型の模擬ウイルスを注射することで、ダチョウの体内にはウイルスに対する免疫ができます。

そして、卵の黄身の部分にウイルスに対する抗体ができるのです。

しかも、ダチョウは大きな卵を数多く産むという利点があります。

抗体マスクは感染症の専門家も注目しています。

現在、飯塚市のクロシードには医療機関や官公庁、企業などから問い合わせが殺到しています。

秋には一般販売も目指しています。

人から人へ、爆発的にうつる新型インフルエンザが発生するのかどうか。

正しい情報を手に入れ、備えをしっかりとしておく必要があります。